



ケアマネ通信おびひろ

平成 23 年 12 月 26 日発行

帯広市介護支援専門員連絡協議会

発行責任：濱 功之

第34号

【目次】

- 1、入退会・変更届出の提出についてのお願い
- 2、帯広市ケアマネ連協『The 交流会』報告（指定居宅介護支援事業所ふぁ～すと・芳野光一）
- 3、研修レポート①（開西病院在宅ケアセンター・安田裕貴）（居宅介護支援事業所くるく・尾矢隆一）
（地域包括支援センター愛仁園・東哲慎）
- 4、研修レポート②（小規模多機能型居宅介護あんさんぶる川北・水上文子）（居宅介護支援事業所くるく・今村里美）
- 5、研修レポート③（居宅介護支援事業所ふぁ～すと・菅野文寿）（グループホーム鶴栖・高橋久美子）
- 5、ケアマネの輪（デイサービスセンターツクイ帯広・鬼塚亜美）
- 6、私のお気に入り（居宅介護支援事業所ニチケアセンター帯広・森真二）
- 7、癒しのオフタイム（介護付有料老人ホームみのり帯広・橋本則幸）



入退会・変更届出の提出について

年の瀬になりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか？ケアマネは年末年始に関係なく忙しいですが、寒さも一層厳しくなってきたこの時期は、忘年会・新年会と体調管理がますます重要になってきますね。

さて、総務部からのお願いです。ケアマネ連協では会員の方に対しての情報伝達的手段として電子メールを活用させていただくことが多くなりました。このことにより切手や封筒代等の通信費や経費を削減できただけでなく、総務部員が手分けして行っていた用紙の印刷や封書、郵送などの手間を大幅に縮小することができました。さらに、笠松会長から介護保険に関するタイムリーな情報もいただけるようになりました。メール配信が主流になったことで情報を速やかに会員の皆様にお届けすることができるようになってきております。しかしながら、**事業所が変わった方、退会を希望される方からの届出(届出そのものを知らない方が多いようです)がされていないため、会員の皆様に情報がうまく届かないなどのご迷惑をおかけしていることがあります。**

つきましては、皆様のお知り合いの方などで事業所が変更になったり、職種が変わられた方がいらっしゃいましたら「届出を出した？」と一言お声をかけていただければと思います。退会者につきましては、届出が出されていない以上、年会費の納入が発生いたしますのでくれぐれもご注意ください。

また、現在、郵送やFAXでの情報提供を希望されている方は「ケアマネ通信」「研修案内」のみの情報提供となっております。**できるだけメールの登録をお願いいたします。**

ハッスル大運動会・大興奮！



11月25日グリーンプラザにてH23年度ケアマネ交流会が開催されました。今年は「ケアマネだらけの大運動会」ということでしたが…

今思い返してみると企画から参加させて頂いていましたが何で運動会になったんだっけ？と、いきさつが思い出せず…競技の内容を何にするか、参加してもらうケアマネさん達に楽しんでもらえる企画をと総務部一同



意見が飛び交っていたことだけは思い出せ…。当日、30人程度の参加にて6人1チームで結束を固めるべくスランテーブルでタスキをチームごとに作成。特別ゲストの北海道日本ハムファイターズのさいとうゆうちゃんが選手宣誓（司会の濱さんも野球ユニフォームだったのでこれから草野球開始？かと思える場面でした）そして、さいとうゆうちゃんは水色じゃないハンカチで額の汗を拭っていました（笑）。

プログラム開始前にはラジオ体操で体をほぐしましたが既に体操で体力を使い果たした感があり日頃の運動不足を痛感する一場面でした。プログラムもクイズ大会で○×クイズや算数・英語・ケアマネ試験問題など、各チーム力を合わせて解いていました

が、ケアマネ試験問題については各チーム誰が解くかで動揺が起きていたようです…。

その後は体力、運？勝負ということでピンポン玉をくじで引いた道具を使って運ぶリレーでしたが、皆さん大混戦となりダンゴ状態でピンポン玉を落とさないようかつダッシュで運ぶ選手の皆さんも必死でした。他にも万歩計を自由に振り歩数で順位を競うゲームも個々の振り方が様々で笑いを誘っていました。

最後はダンボールで作成したキャタピラで各チーム代表2名を選出にて大逆転を狙い、物凄い勢いでキャタピラを動かしていました。さすがチーム代表の方達なので戦術を考え丁寧に靴を脱ぎキャタピラに乗り込む、曲がって進み他チームを巻き込む？（ただ、進むと曲がって行っただけかもしれませんが…（笑）

色々な形で盛り上がり、日頃話す機会がない他事業所のケアマネさんとも交流でき楽しい時間を過ごすことが出来ました。交流会終了後は引き続き懇親会ときわにて、運動後の喉を潤されたようです。



居宅介護支援事業所シグナル帯広
及川 由希子

※ちなみにこんな問題が出ました。

- ・フレンチキスとは「唇が触れ合うだけの軽いキス」のことをいう。○か×か？
- ・「ケアマネジャー」を英語で書いてください。 などなど



平成23年度北海道介護支援専門員協会ケアマネ実践セミナーに参加して

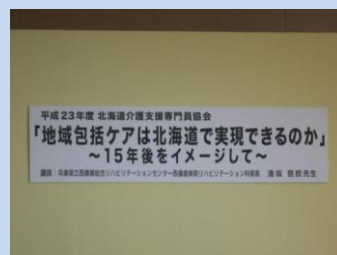
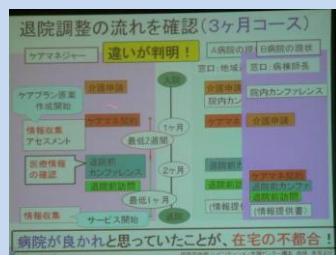
10月15日、札幌市で行われたケアマネ実践セミナーに参加しました。今回のセミナーは、「いきいき福祉・健康フェア2011」の会場であるアクセスサッポロのイベント会場の一角で行われ、早めに会場に行き、福祉・健康にまつわる催しも見学してきました。最新の福祉用具の展示もあり、中でもどちらかの足が少しでも動かせれば、少しの力で自分の足でこげる車椅子や、最新式の福祉車両はとても興味が沸きました。また、「いきいき介護予防体操」にも参加し、簡単な筋力トレーニング・ストレッチ・脳トレーニングを体験し、身体をリフレッシュさせてからセミナーに参加しました。

セミナーの講演は二つのテーマで行われ、最初の講演は社団法人北海道総合在宅ケア事業団の理学療法士、岡田しげひこ先生より『福祉用具はなぜ必要か？』をテーマに話がありました。福祉用具は「自立とQOL」に着目し、福祉用具を利用する目的と目標を明確にしなければ、どんどん使用しなくなる恐れがあるため、目的と目標を明確にしてモチベーションを高く持つことが、福祉用具を導入する上で重要との話がありました。また、介護保険での福祉用具のレンタルや購入が全てではなく、福祉用具に限らず他の方法を考えたりすることも重要であるとの話もありました。最初のアセスメントで「歩けないから車椅子」などと安易な考えで福祉用具を導入するのではなく、福祉用具を利用することで「生活がどう変わるのか？」「何が実現できるのか？」と常に考え、毎日の生活を快適に過ごすための活用を心がけることが必要だと感じました。

二つ目の講演は、兵庫県立西播磨病院リハビリテーション科専門医、逢坂悟郎先生より『地域包括ケアは北海道で実現できるか ～15年後をイメージして～』というテーマで話がありました。関西から来られたということもあり、冒頭から「大阪（おおさか）から来た逢坂（おうさか）です」と自己紹介され、要所要所に笑いがあがり楽しい講演でした。現在日本は少子化と高齢化が進み、少子高齢化率で世界一となり、今後は後期高齢者が爆発的に増え、今後15年で後期高齢者が約32万人増え、働く人が約70万人減ってしまうという、データの紹介がありました。今後自分が生きていく中で、「本当に日本はどうなってしまうのだろうか…」と恐怖を覚えました。そのような状況の中で超高齢社会を乗り切るに

は、中学校区単位で、個々人のニーズに応じて、365日24時間、医療・介護等様々なサービスが適切に提供できるような地域での体制（地域包括ケアシステム）の構築が必要であり、コーディネーターとして地域包括支援センターの役割が大きいとの話がありました。

関西病院在宅ケアセンター
安田 裕貴



先日、アクセスサッポロにてケアマネ実践セミナーを受講させていただきました。「福祉用具は、なぜ必要か？」では、福祉用具を選ぶにあたり大切なことを改めて考えさせられました。不自由だから使う。ではなく、使うことでどうなりたいか、どういう生活を送りたいのかという視点で、定めた目標に向かって使用していくこと。これは、プラン作成時の考え方とも共通する部分でもあると強く感じました。本人が出来ることを確実に出来るようにするために福祉用具を使うことで、本人・家族・支援者が前を向いていく。そうすることで心身や時間に余裕が生まれるのであれば、単なる補助具ではなく、立派な支援・介護の手段であります。福祉用具をそういう存在に出来るかどうか、ここにケアマネの手腕や責任が問われるのではと考えさせられました。

「地域包括ケアは北海道で実現できるか」では今後高齢化が進む社会において、コーディネーターを中心とした地域および医療との連携が重要であることを改めて実感し、重要と言うだけでは済まず、「必要」さらには、そうあることが「必然」といえる社会になっていく時代が近いのかと感じました。

病院側とケアマネの連携において、やはり現在のままでは少し感覚のズレもあると思います。帯広でも地域包括ケアとしてネットワークを形作っていくにあたり、自分としても苦手意識にとらわれず、病院と積極的に連携を取らなければと考えさせられました。

帯広はどのような形を作っていくのかまだ見えないものが多いですが、最終的に病院やケアマネ、地域住民が対等に話しあい、お互いを理解できるような機会も必要かと思えます。そして本人・病院・地域・事業者をつなぐコーディネーターとしてケアマネ・包括がどう機能できるかが地域包括ケアのポイントになると感じさせられました。

拙い文章になってしまいましたが、今回、受講させていただいて、ケアマネとして自分のあり方を考える良いきっかけにもなったように思います。どうもありがとうございました。

居宅介護支援事業所るくる
尾矢 隆一

いきいき福祉・健康フェア 2011～老後の安心・介護の安心・心と体の健康維持で癒された暮らしの実現のために～IN
平成 23 年度 北海道介護支援専門員協会 ケアマネ実践セミナー（平成 23 年 11 月 15 日土曜日/アクセスサ
ッポロ）緊急レポート！！

11 月 15 日アクセスサッポロ、いきいき福祉・健康フェア 2011 に行かせていただきました。広い会場にはたく
さんのブースが並んでおり早くも熱い熱気に包まれている様子。さっそく受付ゲートをくぐり会場へ。そのとき「お
客様、これを…」と声をかけられ、受付の女性から UHB「タカトシ牧場」のポケットティッシュを 4 個いただきま
した。

いろいろなブースで体験コーナーが設置されていて参加させていただきました。介護予防体操に参加し、本田技研
の福祉車両の使い勝手を確認し、認知症予防のためのワインを 4 種類ほど試飲して感心したりしながら、福祉・健康
の最先端を体感することができました。中でも私が「これはいい」と思った物は、株式会社トーヨーアクアテック
の「身守りトーヨーくん」（特許出願中）です！これは、毎日必ず使う水洗トイレの給水管に流水通信機「身守り
トーヨーくん」を設置。トイレを使った時の水の流れを感知して離れて暮らす独居の方の安否を 24 時間確認し孤独
死への不安を解消するもの。1 セット 18 万円が高いのか安いのか、私にはわかりませんが新しいアイデアだなと
思いました。

認知症フレンドシップのブースではなんと、最前列に開西＝荒さん・愛仁園＝渡辺さんが取材された勝毎の新聞の
切り抜きが掲示されており、「こんなところでお会いできるとは…」と感慨ひとしおでした。

そしてどのブースの人も何故か「タカトシ牧場」のポケットティッシュをくれるのでカバンが時間の経過と共にポ
ケットティッシュ収納バックと化していきました。特に、介護予防体操ブースからは、どーんと 6 個も「タカトシ牧場」
ポケットティッシュをいただき、熱い心意気を感じずにはいられませんでした。

「福祉用具はなぜ必要か」岡田しげひこ先生の講演からは、福祉用具＝介護保険ではないということ学びました。
つつい利用者様宅では安易に介護保険の福祉用具カタログ 2011 を開いてしまう私ですが、アイデア次第であ
らゆるものが福祉用具になるのだなと感心しました。先生は一般の生活用品を工夫して活用すること・対症療法じゃ
解決にならぬと熱く語ってくださいました。

続いて「地域包括ケアは北海道で実現できるか～15 年後をイメージして～」逢坂悟郎先生の講演からは「15 年
後を考えると地域包括ケアは今やらねばならぬ。その解決策はコーディネート技術なのだ！」という熱い話を伺うこ
とができました。（注：東解釈）逢坂先生はドクターなので病院が中心となって作ったネットワークやコーディネ
ートのお話でしたが、地域包括支援センターとしても当てはまる部分が多く勉強になりました。コーディネータ
ーは黒子、そして戦略的脇役であるということを再三強調されていました。主役は地域の方々や会議の参加者である
ことが大事とのことでした。「戦略的脇役」の『戦略的』という響きに妙に心を奪われながらも、ネットワーク形成
の際に役立てていきたいと思いました。

閉会の挨拶では北海道介護支援専門員協会副会長・村山文彦氏が、会場のおよそ 80%が予測していた通り、「コー
ディネートはこーでねーと！」と戦略的あいさつで締めくくって下さり、新たな決意と余韻の中、後ろ髪をひかれつ
つ会場を後にしました。

その日の夜は、学んだことを今後の業務にどう活かすべきか、只今進行中の認知症ネットワークをどのように戦略
的コーディネートするべきか…などと「タカトシ牧場」ポケットティッシュを両手に思考をさまよわせたのでした。

地域包括支援センター愛仁園

東 哲慎

●●研修レポート②●●

「ケアマネ連協・第1回学習会「サービス担当者会議の効果的な開き方」」



「サービス担当者会議」のロールプレイを見学させて頂いた後、10のグループに分かれグループ毎にロールプレ
イを見学してそれぞれが気が付いたことなど意見を出し合い、日頃自分たちが行っている「サービス担当者会議」に
ついての情報交換を行いました。

私が参加させて頂いたグループは施設のケアマネをされているグループで、老人保健施設・認知症グループホーム・小規模多機能型居宅介護の事業所に勤務されている方々でしたので、「サービス担当者会議」の開き方には違い
がありました。

先ずはお互いの「サービス担当者会議」についての情報を出し合いました。その中では、利用者様ご本人やご家族
様の「サービス担当者会議」への参加が難しかったり、利用者様の人数が多数で会議の時間を図るのが難しかったり、

「ケアプラン」の内容が多岐にわたってしまい盛り沢山となってしまうたり、スタッフの「ケアプラン」に対する理解が難しかったり、ケアマネの業務が兼務などで時間が十分にとれなかったり、「ケアプラン」の見直しや、モニタリングの期間に違いがあったり…など様々な悩みや疑問を出し合い意見交換をしました。中には裏ワザ?とも思えるグットアイデアなども飛び出して皆さん興味津々で日頃の悩みの深さを感じられて「ロールプレイのようにちゃんと出来る様に頑張ります!」と思いを新たにされる方も居ました。

それぞれ務めている事業所や市町村によって全く異なる業務内容が求められる中で、それぞれの場所や立場で頑張っている皆さんのお話を伺えるこのような機会はケアマネの仕事の幅の広さと奥深さを感じ、また自分自身を見つめ直すことが出来たととても勉強になります。「人生、死ぬまで勉強」を胸にまた頑張ろうと思います。ありがとうございました。

小規模多機能型居宅介護あんさんぶる川北

水上 文子



ケアマネジャーの仕事に就いて、サービス担当者会議は何度も行ってきましたが、毎回反省することばかりです。会議中に利用者を置き去りにしていないか、また利用者が会議の内容を理解して終わることが出来たか等、**迷ったり悩んだりの連続**でした。

その様な状況だったため、今回の学習会のテーマは、これからの会議や実務に大いに参考になり、とても勉強になりました。

最初にロールプレイがありました。第三者として一連の会議の流れを見ることができ、今までの自分のやり方で悪かったことや良かったことが、客観的にわかりました。

本人のニーズに対して1つずつ丁寧に進めており、ニーズごとに要約し、議論をしっかり確認していました。本人・家族を含め全員が内容を把握しやすいように、工夫されていたことが良かったと思います。

その後のグループワークでは、ケアマネジャーの先輩方の経験談がとても参考になりました。普段はなかなか出せない自分の悩みも解消され、とても有意義のある時間を過ごすことができました。

今回の学習会の後に意識して行なっていることは、会議開催前の準備を入念に行なうこと。そして利用者によく話しをして意向を確認し、サービス事業所とサービス内容の打ち合わせをしっかりするよう努力しています。

この準備に時間をかけることにより、会議がスムーズに進むというメリットのほか、利用者と多くの時間を関わることになり、結果として**本音や希望を聞きやすくなった**と実感しています。適切なケアマネジメントにつながっていくよう、これからも日々努力していきます。

この学習会に参加して、サービス担当者会議に対する意識が変わったことが、私にとってプラスになりました。担当者会議に集まったメンバーが、チームとして同じ方向を向いた支援を確立できるように、頑張っています。

居宅介護支援事業所るくる

今村 里美

●●研修レポート③●●

【帯ケアマネ連協・第2回学習会「モニタリングの視点」】

11月16日に第2回研修会に参加しました。私は今年の4月からケアマネとして働いています。モニタリング訪問をした時に実際にはどのような話の進め方や聞き方をしているか、どのような事に気を付けているかという事をテーマにグループワークしました。困っている事として、なかなか自分の事を話してくれない方との会話、ケアマネとして聞きたかった事が聞けず、世間話が多くなってしまう事があるというような自分同様の意見が聞かれ、同じような事を感じているのだと実感しました。そこでは、この事に対してそれぞれのケアマネさんが行っているモニタリング訪問の『技』を聞きました。会話からだけでなく、ご自宅内の状況、におい(排泄状況等)、家族の様子など会話以外からもモニタリングをしているという意見が多く、中には長く受け持っている利用者様で、お互いの信頼関係もできており、本人もケアマネも無言の時間があって苦にならず、無言の後に話し出す方もいるとの話を受け、経験の浅い私にとって経験した事のない話で、とても勉強になりました。

これから、利用者様のペースや雰囲気に合わせて、型にはまらない柔軟な接し方のできる『技』を磨いていきたいと思えます。

居宅介護支援事業所ふあ〜すと

菅野 文寿

第2回学習会が、平成23年11月16日にグリーンプラザで行われました。前回の担当者会議と内容を継続した今回のテーマは「モニタリングの視点」でした。前回同様にロールプレイを始めに行った上での、グループワークという流れで行われました。

ケアマネジメントでは、利用者の有する解決すべき課題に即した適切なサービスを組み合わせることで利用者に提供し続けることが重要である。このためケアマネジャーは利用者の解決すべき課題の変化に留意することが重要であり、ケアプランの作成後実施状況の把握を行い、必要に応じてケアプランの変更や調整等行われていく。この状況把握を行う過程がモニタリングである。

グループワークは居宅と施設に分かれて行われましたが、その中でも私が参加させていただいたグループでは各自が使用しているモニタリングシートを持ち寄り、実際にどのようにモニタリングを行っているのか意見交換を行いました。モニタリングの期間はどれくらいなのか、満足度は入居者本人のものだが認知症のため判断が難しい等々の話が出ておりました。グループホームでのケアプランが入居者にとってどのような効果が得られたのか、また生活の中で変化が生じていないかという情報をいち早くキャッチすることが、ケアマネジャーの役割であり、施設ケアを行ううえではスタッフとの連携が非常に重要になってくるのだと感じました。

今年度から参加させていただいている当協議会ですが、様々な事業所で活躍されているケアマネジャーの方々とのケアプランの相談は勿論ですが、時にはそれ以外の話をするきっかけができたことに感謝しております。



グループホーム鶴栖
高橋 久美子

ケアマネの輪・和・話



居宅介護支援事業所ツクイ帯広西

鬼塚 亜美

『皆さん、初めまして。10月からツクイ帯広西で居宅ケアマネをしております鬼塚です。6月まで札幌のツクイで働いていましたが、夫の転勤で帯広に引っ越すことになりケアマネ歴1年の未熟者が一人で居宅をスタートすることになったのです。』

ケアマネの資格を取っても実務につかなければ介護保険の仕組みがわからないと感じて介護職員から居宅に移って1年。ちんぷんかんぷんの毎日で、やっと基礎の基礎がわかりかけてきたかなというところで一人ケアマネに…。知らない土地で、知識も不十分の自分がやっていけるのだろうかと不安な気持ちで居宅開設のご挨拶に回っていた時『ケアマネ連協知ってる？』と包括のケアマネさん達に声をかけてもらい「なんて気さくな人達なんだ」と感動しながら入会し、勉強会や懇親会にも勇気をだして参加してみれば、また皆さんが優しく話してくれさらに感動！こちらのケアマネ連協は温かい雰囲気があるなあという印象を持ちました。

これから山あり谷ありの苦難が待ち受けていると覚悟していますが、一番怖いのは自分が未熟なばかりに利用者さんに迷惑をかけることが何より恐怖です。今現在も、日々自分の知識のなさに怯えてプレッシャーの毎日で、家に帰るとクタクタです。

そんな私の癒しの時間が、子供達が眠ってから（←ここが肝心）子供達の布団にもぐりこんで少しの時間添い寝することと、我が家のアイドル猫の「ミュウ」をムギュッと抱きしめることです。若干、迷惑そうな表情をされますがそこがまたいい（笑）最高の特効薬となっております。とにもかくにも、早く一人前になれるよう頑張りますので、温かい目で見守って下さい。よろしくお願いたします。』



～私のお気に入り～



居宅介護支援事業所ニチイケアセンター帯広
森 真二

★紹介するもの★ 「手帳」

私のお気に入りということは、何でもいいのか？という
ことで、お気に入り「手帳」についてご紹介(´o`)

皆さんは手帳ってどんなものをお使いでしょうか？わたしは2006年からほぼ同じタイプのものを使っています。「手帳は高橋」・・・の高橋書店ではなく日本能率協会マネジメントセンターが発行するポケットサイズのもので、2006～2008年は全く同じものを使っていました。2009年からはモデルチェンジがあり、同様のタイプのものになりましたが、基本的には書き込みの様式もサイズも以前と変わらないので、しつこく使い続けています。残念ながら2008年物は激動の中で行方知れずとなり、現存するのは今年のものを含めて5冊。当然来年の2012年も準備OKです。一応2010・2011・2012と色は交互にしていますが・・・。悔やまれるのは2008年物がいすこへ・・・(ToT)/^^

皆さんも年の移り変わりをどのようなものや出来事で感じているのでしょうか？私は何故か手帳がひとつの変わり目として感じるツールとなっているのです。

癒しのオフタイム (´▽`)/!!!!

介護付有料老人ホームみのり帯広
橋本 則幸

介護付有料老人ホームみのり帯広で施設ケアマネジャーをしております橋本と申します。私の休日は、専ら子供（長男：3歳・次男：9ヶ月）の相手をしております。特に今、長男と一緒にハマっているのは「仮面ライダー」です。現在、放送している「仮面ライダー フォーゼ」は、毎週欠かさず見えています。仕事で私が見られない時のために録画するなど、家族全員でハマっています。仮面ライダーがしている変身ベルトを買って欲しいと何度もせがまれるのは少々苦痛もありますが、自分も一緒になって妻にお願いしてみたりもしてあれこれおもちゃを手に入れてあります。私自身、これほどハマってしまうとは思いませんでしたが「仮面ライダー」シリーズや「ヒーロー戦隊」シリーズは、子供だけが見る番組ではなく、今や親子で楽しめる番組となっています。（注：テレビ局の回し者ではありません・・・）同年代の子供さんをお持ちの方なら、ご理解いただけると思いますが、同年代でなくとも、お子さんが居なくとも、楽しい番組なので、是非一度ご覧になってください。（しつこいようですが、テレビ局の回し者ではありません・・・）



こんな感じで、休日は、子供達とおもちゃで遊んだり、テレビを見て過ごすのが、いつの間にか「癒しのオフタイム」となっております。

【介護支援専門員連絡協議会からのお願い】

★連絡先や勤務先が変わったり、苗字が変更になった場合、HPにある「入退会・変更届出書」の書式を活用して速やかに届け出てください。

★会員への情報配信は可能な限りメールでの配信をお願いいたします。メールアドレスの登録についてのご協力をお願い致します。

★新規入会は随時受け付けています。入会申込書は、ホームページから入手できますので詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

（事務局 帯広市社会福祉協議会 藤原）

＝ 編集後記 ＝

こんにちは。小栗旬「激似」の編集長「えっち」です。私事ですが、小規模多機能の立ち上げから4年という月日が流れました。異動が決まってからの日々は何か不思議な解放感で溢れていました。そんな気分で事務室（自分の城みたくなっていました）の整理を始めました。懐かしい資料が次々に出てくる・・・その一つ一つに目を通していると、書類が訴えかけてくるような気がしました。「ひょっとして何か成し遂げたような気がするんじゃないだろうか？」・・・衝撃的でした。深く突き刺さった棘がいつまでもとれずに・・・じりじりと感情を揺さぶり続けました。この4年間、何をした？何ができた？何をみてきた？・・・開設時に思い描いていたことのほとんどが実現できていないことに気付かされ、強く動揺しました。まだまだ未熟です。高い目標を掲げ「やったりつもり」になっていただけでした。

来年から職場は変わりますが、私が目指していることは何も変わりません。解放感に浸っている場合ではなく、危機感を持って取り組んでいかなければ・・・

来年の目標を漢字一文字で表現するならば「開」です。

編集長えっち